

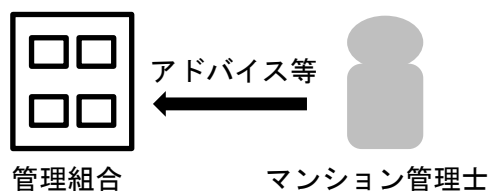
## 早期学習でW合格を掴む！

### 「マン管・管理業 W合格のすすめ！」

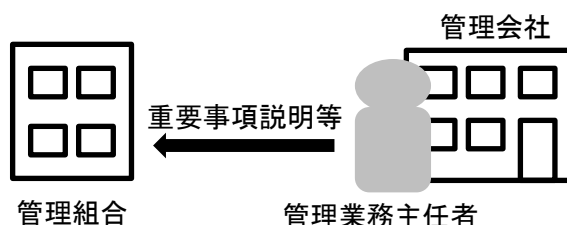
#### 1 マンション管理士と管理業務主任者

マンション管理士は、専門的知識をもって、管理組合の相談に応じたり、助言をしたりする資格です。独立開業して業務を行います。管理業務主任者は、マンション管理業者の事務所ごとに置かれ、重要事項説明等の業務を行う資格です。マンション管理会社の従業員が取得する資格です。

##### ■マンション管理士



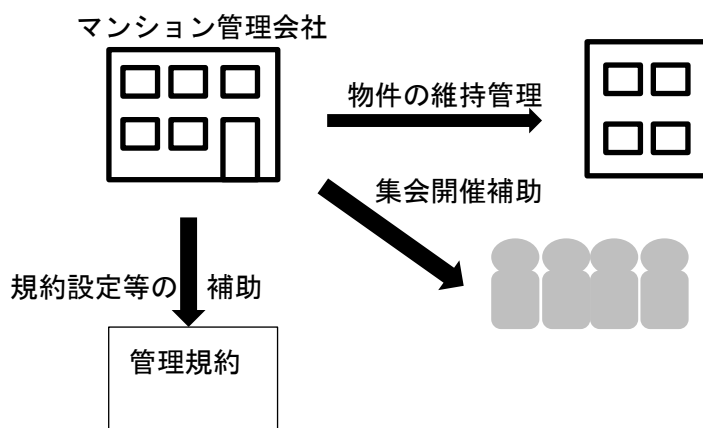
##### ■管理業務主任者



マンション管理士、管理業務主任者に近い資格として、宅建士・賃貸管理士があります。宅建士は、正式には宅地建物取引士といい、不動産会社の従業員が取得する資格で、不動産の売買等の際に重要事項説明や契約書への記名を行います。管理の場面ではなく、取引の場面で必要となる資格です。

賃貸管理士は、正式には賃貸不動産経営管理士といい、賃貸物件の管理会社の従業員が取得する資格です。

分譲マンションの管理と賃貸物件の管理は、物件の維持管理という点では類似しますが、分譲マンションの管理の場合、管理組合の運営補助も含まれますので、より専門的な知識が必要となります。



## 2 試験の概要（数字は令和5年度のもの）

	マンション管理士	管理業務主任者
受験申込者数	13,169名	17,855名
受験者数	11,158名	14,652名
合格者数	1,125名	3,208名
合格率	10.1%	21.9%
合格基準点	50問中36問以上正解 (試験の一部免除者は45問中31問以上正解)	50問中35問以上正解 (試験の一部免除者は45問中30問以上正解)

マンション管理士試験の方が管理業務主任者試験よりも難しくなっています。

## 3 W合格を目指すメリット

## (1) 試験範囲が広いがマン管・管理業でほとんどの科目が重複する

マン管・管理業試験は、民法から会計、建築分野等の非常に広範囲の法律等から出題されます。特に、区分所有法や標準管理規約といった、マンション管理に関係するややマイナーな法律等から出題されます。また、複合問題も頻出ですので、覚えるのに時間がかかります。理解力・応用力をつけるには、早期学習がおすすめです。

また、マン管・管理業双方の試験で、出題される科目はほとんどが重複しており、両試験を同時に学習することが可能です。ただし、同じ科目でも出題数や頻出論点に違いがあるため、特にW合格を目指す場合は、まんべんなく学習をする必要も出てきます。

## &lt;主な試験科目&gt;

	マンション管理士	管理業務主任者
民法	6～7問出題 マンション内のトラブル等を事例として出題される。	6～7問出題 マンション内のトラブル等に加えて、委任や請負といった、管理委託契約に関連する論点から出題される。
区分所有法	11問程度出題 細かい知識まで問われている。また、暗記だけではなく理解が必要となる。	6～7問出題 大半が基本的な知識から。重要な判例は繰り返し問われている。
標準管理規約	6～7問出題 基本的な知識から出題される。	6～7問出題 基本的な知識から出題される。
会計・税務	2問出題	2～3問出題

建築知識・維持保全	15 問程度出題 範囲は広いが、同じ論点の繰り返しが多い。	12～13 問程度出題 非常に細かい論点からも出題される。
適正化法	5 問出題 基本的な知識から出題される。	5 問出題 基本的な知識から出題される。

## (2) 一方の試験を合格するともう一方の試験が5問免除される

マン管・管理業試験は、どちらか一方を合格すると、もう一方の試験の適正化法の分野5問が免除になります。

## 4 早く始めるメリット

## ●理解力が求められる科目

慣れるまでに時間が必要。ある程度の知識の土台がないと、問題を解くことができない

早く始めることで、事例問題等にも対応する時間的余裕を作る

## ●横断整理が必要な科目

複数の科目を学習し終わってからでないと相違点の確認等の横断整理ができない

早く始めることで、横断整理の時間を作る

## ●暗記科目

一度暗記しても、人はまた忘れてしまう。なかなか暗記できない項目もある。

早く始めることで、繰り返し重要数字等を覚える時間を確保する